

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年7月31日現在

今月の重点活動

■えだまめ 第7回岐阜えだまめ収穫体験を開催

7月18日に、第7回岐阜えだまめ収穫体験が開催され、開会セレモニーには、岐阜えだまめのイメージキャラクター「まめたん」のお披露目会が行なわれ、来場者からは「とてもかわいい」と好評であった。

当日は降雨のため、収穫体験は行えず、来客数への影響が心配されたが、準備した5,000株は1時間半ほどで完売した。これは、収穫体験を楽しみにしている消費者が多いことに加え、7月11日のテレビ放映の反響やPR効果も大きかったことを表す結果となった。農業普及課は、収穫体験の円滑な開催に向け、収穫体験ほ場の設置から、栽培管理、開催までの運営全般に係る指導を行った。

今後は、生産組織及び関係機関とともに、収穫体験全般についての反省点・課題を整理した上で、対応策を検討し、次年度の実施方針を決定する予定である。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【まめたんのお披露目】

活力ある新産地づくり

■秋冬ブロッコリー 播種作業開始

J Aぎふブロッコリー生産連絡協議会では、生産者の育苗労力の負担軽減のため、J Aぎふ所有の全自動播種機を活用して、管内の花き農家等に育苗の管理を委託する「苗管理委託事業」を行っており、健全で安価な苗供給ができています。

7月23日には、1回目の作業を行い、8月17日までに128穴セルトレイ約6,000枚を播種する予定である。農業普及課では、灌水量や害虫対策として施用する粒剤の散布量など、安定した初期生育につながるよう管理指導を行っている。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【播種作業の様子】

売れる農畜産物づくり

■水稲 水稲除草小型ロボットで水田雑草楽々管理

羽島市では、水稲除草小型ロボット（アイガモロボット）を利用した水稲特別栽培米生産に取り組んでおり、今年は「ハツシモ」約110aを作付けており、6月10日に移植された水田では、週2～3回ロボットを走行させ、除草作業を行ってきた。

田植え後45日が経過した調査ほ場では、部分的に少しヒエが残るものの、除草効果は地域のほ場と比較しても同等で、水稲除草小型ロボットの実用化に向けて、さらに期待が膨らんでいる。

今後、生育及び収量調査を行い、収量等への影響を確認する予定である。

(地域支援第二係・山田隆史)



【移植45日目のほ場の様子】

■だいこん 意見交換会・栽培研修会を開催

7月10日に、J Aぎふだいこん部会の意見交換会・栽培研修会が開催され、農業普及課からは、今年問題となった抽苔や病害虫の対策、品種試験結果、土づくりの推進と土壌診断、GAPなどの指導を行った。また、近年のだいこん生産の推移について情報提供を行うとともに、生産者の今後の営農意向を確認するため、アンケート調査を実施した。

今後、アンケート調査を取りまとめ、だいこん産地を活性化させるための取り組みなどについての検討、指導を行う予定である。

(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【栽培研修会の様子】

戦略的な流通・販売

■えだまめ 岐阜野菜料理教室でえだまめのPRを実施

7月28日に、神戸市中央卸売市場において、岐阜野菜親子料理教室（17組42名の親子が参加）が開催され、県を代表する3品目の野菜（えだまめ、トマト、ほうれんそう）を使った料理づくりと産地紹介が行われた。

岐阜えだまめの産地紹介では、JAぎふと農業普及課の担当者が講師となり、栽培方法などの紹介とえだまめ2品種の試食を行った。

参加した親子からは、「料理だけでなく、栽培のことも理解することができて、大変勉強になった」「野菜が嫌いなのに食べられた」「すごく美味しい」などの感想があった。

今後は、岐阜えだまめの認知度を更に向上させるため、店頭でのPR活動など、消費拡大に向けた取り組みを支援する予定である。（園芸産地支援第一係・川部 知）



【消費宣伝の様子】

多様な担い手の育成・確保

■女性農業経営アドバイザー わかばマーク女性農業者研修会・スキルアップ研修会

7月9日に、第1回目わかばマーク女性農業者研修会と女性農業経営アドバイザースキルアップ研修会を同時開催し、若手の女性農業者13名、アドバイザー15名が参加した。

午前の部は、瑞穂市で料理教室を主宰する青木さんによる地元農産物を利用した「夏野菜たっぷりご飯6品」の調理実習、午後の部は、2班に分かれ日頃の農家生活の悩みなどについての意見交換を行い、交流を図った。例年とは異なり、大人数の研修会場ではパワフルなアドバイザーに押され気味のわかばマーク研修生（若手女性農業者）も、交流会終盤には活発な意見交換の場となり、お互いのアドバイスに耳を傾け、実のある研修会となった。

農業普及課では、本研修会の開催・運営を支援するとともに、今後も若い女性農業者の能力が発揮され、地域農業の重要な担い手として活躍できるよう継続した支援を行う。

（地域支援第三係・横田京子）



【できた料理に話が弾む】

■中山間地域 能郷営農組合通常総会

7月16日に、能郷営農組合通常総会が開催された。当営農組合は、平成24年7月に設立され、地域の農地保全のために機械の共同利用等を実施し、水稻・小麦の作業受託を中心とした営農活動に取り組んでいる。

今年度は、4haの作業受託及び1haの特定農作業受委託を計画している。今後農業普及課では、営農計画の策定支援、水稻・小麦の栽培管理指導を実施するなど、中山間地域での厳しい条件下で営農に取り組む組合に対し、引き続き支援を行っていく。

（地域支援第三係・岡田隆史）



【通常総会の様子】

魅力ある農村づくり

■かき かき農家の獣害対策の支援

7月24日に、岐阜市西秋沢自治会の会合が開催され、農業普及課から、円蔵洞集落のかき生産者に対して、獣害対策の実施について働きかけた。これまでのトレイルカメラによる調査結果を示しながら、当地内ではニホンジカ、イノシシが道路上を闊歩する姿も確認されており、害獣の生息密度の高さについての理解を促した。

今回の話し合いにより、西秋沢自治会では鳥獣被害防止対策交付金を活用し、円蔵洞集落全体を囲う侵入防止柵を設置して対策を図ることとなり、関係機関連携のもと、引き続き支援していくこととしている。（園芸支援第二係・青山哲）



【道路を歩くニホンジカ】